

あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第444号 発行日 平成26年11月28日

第41回日本重症心身障害福祉協会・東日本施設協議会

事務長 鈴木 薫

11月6日（木）、7日（金）の2日間にわたり、第41回日本重症心身障害福祉協会・東日本施設協議会が、千葉市のホテルグリーンタワー幕張で開催されました。当センターからは、柳瀬院長と鈴木が参加いたしました。

本協議会は、東日本地域の重症心身障害児者施設で構成されるもので、3つの地域ブロック（北海道・東北、関東、中部）に所在する施設が毎年交代で協議会の開催を担当しています。今年度は関東ブロックの千葉県が当番県

として協議会を運営し、全部で60施設の理事長、施設長など、約150名の参加がありました。

初日は、特別講演2本と調査研究報告がありました。埼玉大学の宗澤忠雄准教授による特別講演「障害児者施設における虐待防止の取り組みを進めよう」では、障害者権利条約の意義、虐待に至る前の不適切なケアの段階での把握と対応の重要性などについて、熱心にご講演いただきました。次に、あおぞら診療所新松戸院長の前田浩利氏の特別講演「地域で支える小児在宅医療」では、大島分類の重症心身障害児の枠には当てはまらない、医療ケアが重い在宅の子どもたちが急増しており、現行の福祉制度の谷間にあること、小児在宅医療を地域で支える関係者のネットワークの構築が課題であることなど、現場での取り組みを踏まえた貴重なお話を伺うことができました。

2日目は、ミニシンポジウムが開催され、「重症心身障害児者における重大な治療方針の決定プロセス」をテーマに4人の施設長から報告がありました。それぞれのお立場から、身寄りのない重症心身障害児者の医療同意のあり方、気管切開前後での利用者からの聞き取り結果を通じて感じた重大な治療方針決定に際する倫理的・社会的課題、施設における倫理委員会での検討、ご家族の意向確認の方法などについてご報告いただき、「本人にとっての最善の利益とは何か」などについて活発な意見交換が行われました。

総会後は、千葉リハビリテーションセンター「総合療育センター」を見学しました。当該施設は、リハビリテーション医療施設に併設された施設で、肢体不自由児と重症心身障害児者を対象とした入所、通園、短期入所、外来、相談事業を行っているところです。

昭和56年開設の古い施設ではありましたが、通路幅などはかなり広くてゆとりがあり、備品類なども整理整頓が行き届いていて清潔感のある施設でした。リハビリ施設だけに車椅子外来まであるのには驚きました。また、県立こども病院、特別支援学校が隣接するなど、恵まれた環境にあり、計画的に整備された施設群であることを感じました。

なお、来年度の本協議会は、東京都での開催となります。



千葉リハビリテーションセンター

香宗我部滋元院長が瑞宝双光章を受章されました

この度、平成26年秋の叙勲において、当センター元院長香宗我部滋先生が、瑞宝双光章の受章の栄に浴されました。心よりお祝い申し上げます。

香宗我部滋先生のこれまでの功績が、叙勲の榮譽として認められましたことは、センター職員一同大きな喜びであります。私共職員もこれを励みにより良い療育を提供していきたいと思います。



第十六代院長 香宗我部先生
平成17年7月16日～平成20年6月30日

「府中療育センター改築工事基本設計」ができあがりました

事務次長 瀬川 裕之

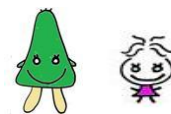
老朽化した当センターの全面改築については、これまで平成22年5月に「基本構想」、平成23年6月には多摩療育園と一体的に整備し総合的療育医療センターを目指すという「基本計画」が発表されております。その後、当センターでは多摩療育園と合同で改築計画検討委員会を立ち上げ、両施設からの提言や要望を検討してきました。さらに、設計委託事業者（株式会社横河建築設計事務所）による各部署へのヒアリングや家族会等のご要望も踏まえ、本年9月に「基本設計」ができあがりました。

全面改築工事の基本事項を定める本基本設計は、6つのコンセプト（①利用者の視点に立った施設づくり、②スタッフの働きやすい環境の確保、③安全・安心な環境の形成、④エコデザインの実現、⑤フレキシビリティに優れた計画、⑥徹底したコスト管理）に基づいて作成されています。今後、本基本設計の具体化・詳細化を通じて、新センターを利用する皆さんが笑顔になれるような施設づくりを目指していきます。

年度内には、本基本設計を踏まえた実施設計の検討・作成に入る予定にしています。併せて関係法令に基づく各種申請や届出、近隣住民への説明についても実施していきます。なお、新センター建物竣工は平成31年度の予定です。



新センター立体模型です。外来玄関のホールにありますので、ぜひご覧ください。



院内研修「障害者の虐待防止について」

医療社会事業担当係 高柳 謙一

10月30日（木）、野沢和弘氏（毎日新聞論説委員）を講師に『障害者の虐待防止について』の研修を行いました。合計61名の参加者があり、関心の高さが伺われました。

今年2月の東京都医療社会事業従事者研修で、先生の講義を聴講した当係ワーカーが感銘を受け、それをきっかけに、今回野沢先生に講演を依頼することとなりました。

講演は、一言でいうと「分かりやすく、身近なことに気づかされる」内容でした。ユーモアに溢れた話で引き付け、その中から見逃しやすきことをしっかり捉えることの大切さや、気づく感性を磨くことの必要性が強調されました。パワーポイントを操りながら、全く淀むことのない話しぶりは、まさにプロという感じを受けました。

自分が虐待を受けたとしても、認知できなかつたり、外に向かって訴えることができない重症の障害者にとって、「利用者が何を言わなくても虐待である」という話。また、利用者の思いをくみ取れない感性や無意識のうちに責任転嫁をしてしまう職員の資質が虐待の温床になりうるという話等、常に私たちが直面する可能性のある内容でした。

アンケート結果で、「とても参考になった」と「参考になった」を併せると100%で、「とても参考になった」が約90%を占めたことでも、大変意義のある研修になったと思われまます。研修に参加できなかった職員用に、研修後資料を配布しました。これをきっかけに、「障害者と虐待」について身近な問題として考えていきたいと強く感じました。



秋の企画「秋の実り」

指導科 小峯 孝男



11月12日(水)、あじさい館で毎年恒例の「秋の实り」が行われました。当日は天候にも恵まれ、利用者の皆さんに来ていただき、大いに盛り上がり、無事終了することができました。

秋の味覚を賞味しながら、「展示作品」と「アナと雪の女王」でセンター祭の思い出と秋を堪能しました。あじさい館に入るとすぐに各病棟の作品がお出迎え。センター祭を盛り上げてくれた発表の数々がよみがえります。

多目的室に入ると焼き芋とりんごのいい匂いが鼻をくすぐり、美味しいお芋とりんごに皆さんの笑顔がこぼれます。お腹が満足した後は展示作品をゆっくり鑑賞します。あらためて展示作品のできばえに感心しました。奥の部屋に入れば、「アナと雪の女王」が再登場です。皆さんゆっくりとご覧になっていましたね。

今年の秋の实り、皆さん、お楽しみいただけただけでしょうか？来年もお楽しみに。



あじさい館の展示作品



お芋とりんごを焼いています♪

第2回院内感染防止研修会

内科医長 石川 貴敏



去る10月24日(金)14時から「あじさい館」で、第2回院内感染防止研修会が開催されました。講師には、独立行政法人 国立病院機構東京医療センターから森伸晃院内感染対策室副室長をお招きして、「耐性菌」をテーマに約1時間半の講演を行っていただきました。

耐性菌とは、感染症の治療に使う抗菌薬が効かない細菌のことで、発病すると治療が非常に難しくなります。ですから、耐性菌を作らないことや感染を広げないことが対策の鉄則です。

講義では、耐性菌の中でも問題が深刻な「緑膿菌」を取り上げ、基本事項から、感染対策や治療法などの専門事項まで多岐にわたったお話を聞くことができました。

緑膿菌は水の豊富な場所に生息しており、バイオフィームというバリアを作って身を守っています。洗い桶のぬめりなどはバイオフィームの可能性がります。また、この菌は、抗菌薬を無効にする様々な仕掛けを持つとともにいくつかの毒素を出すため、感染症が起きると命取りになるようです。

予防のポイントは「手洗い」ですが、特にアルコール性擦式消毒剤は効果があり、より多くの人々が正しく手指消毒を行うことで施設内感染を減少させることができるということでした。

本年度2回目の研修会には76名が参加しましたが、参加者からは「緑膿菌のことがよく理解できた」「手洗いがすべてにおいて基本であることを再認識した」という感想が多く聞かれ、有意義な研修となりました。



災害対策本部の様子

秋の総合防災訓練

事務室 高木 敬子

10月28日(火)、秋の総合防災訓練を実施しました。午後2時、震度6弱の揺れがあったとの想定で、直ちに災害対策本部を院長室に設置し、利用者・職員の安否、設備の状況等を集約して対応を協議、センターの災害時における「事業継続計画」を踏まえ、必要な情報を院内各部門に発信しました。

引き続き、1-B病棟での火災発生を想定し、初期消火・利用者全員の避難訓練を行いました。避難完了後、病棟中庭において府中消防署員による救出訓練とポンプ車による放水演習等が行われ、さらに、AED訓練、消火・放水訓練などの教育訓練を神経病院職員も加わって合同で受けました。

また、災害発生時の初動体制確保に向け、幹部職員等は、職員安否確認などについて図上訓練を実施しました。なお、秋の総合防災訓練とは別に、災害用伝言ダイヤルを活用した情報伝達訓練を年度内に取り組む予定です。

災害時の安全確保のためには、職員一人ひとりが防災意識を高く持つとともに、必要な知識や技術を習得することが重要です。今後とも、施設や病棟の特性を踏まえた効果的な防災訓練を実施していきます。



救出訓練の様子



起震車体験の様子



平成26年度自衛消防訓練審査会

事務室 中田 祐介

11月14日(金)に府中消防署の自衛消防訓練審査会が府中市民陸上競技場で行われました。府中市内にある各事業所の自衛消防隊が参加し、当センターからは男子隊と女子隊各1隊の計6名が参加しました。

自衛消防訓練審査会では、火災発生から消防隊が到着するまでに行う119番通報、避難誘導、消火器や屋内消火栓の操作など初期消火活動の正確さや消火に要した時間を競います。練習は、9月下旬から始まり、府中消防署や経験者の方々に指導をいただきながら約2か月間行いました。

審査会の当日は、院長先生をはじめ多くの方々に応援やサポートをしていただき、本番に臨みました。緊張した雰囲気の中での審査でしたが、結果は、女子隊が優秀賞、男子隊が敢闘賞という成績を残すことができました。

審査会に向けた練習や本番を通じて、改めて防災意識の向上や訓練の重要性を学びました。この経験を活かし、今後ともセンターの自衛消防力の更なる向上に取り組みたいです。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>